

説教のポイント

神から 神により 神へ

ローマー一・三〇～三六

「我思う、ゆえに我有り」とは近代のはじめに哲学者が語った言葉。そのように、私たちはすべて自分で考え、自分で決め、自分で行動し、その果実も責任も自分でとっているところから思っています。もちろん自立心は大切ですが、それが乗じて自己中心となつては本末転倒。

ある方が問いかけました。「君は何でも自分の力で考え、行っていると思つていようだが、例えば呼吸はどうかね。寝ているあいだ、自分で呼吸しようと思つて息をしているのかい?」。生きていくのに欠かせぬ呼吸でさえ、誰一人、自分で意識してやつてはいない。命にとつて大切なものほど、意識せずして与えられ、保たれている。だから、聖書は言います。

「すべてのものは、神から出て、神によつて

保たれ、神に向かつているのです」

(ローマー一・三六)

出発点 (From) も神。途中 (through) も目的地 (to) も神。私たちが生まれ、命をつなぎ、やがて命をお返しする、そのすべてを支配しておられるのは神なのだ、と。

自分「一人」で生きていと思うとき、私たちは他と分離し、他と比べ、他と競いあう。ただし、同じ「一人」だが、神さまが「一人」(または唯一) というときはまるで違う。

実はその箇所、聖書には「神、一」と書いてあるだけ。神様の数を数えて、二人ではない、一人だよというのではなく、ただ「神、一」と。これは一体、神様の数のことだろうか?

いやむしろ、この神を見上げるとき私たちは、善い者も悪い者も、従順な者も不従順な者も、「みな一つとなるのだ!」、ということ。

だから「神、一」。神のもと、私たちは一つ!

(二〇一六年九月一八日礼拝より、津田記す)